

友人・恋人関係における役割期待の時間的変化について

Role expectation for a partner changes with time

熊谷 優希[†], 日根 恭子[‡]
Yuki Kumagai, Kyoko Hine

[†]東京電機大学情報環境学部, [‡]豊橋技術科学大学大学院情報・知能工学系
Tokyo Denki University, Toyohashi University of Technology
16jk092@ms.dendai.ac.jp

Abstract

Role expectation has an important role on building relationships. However, it was not clarified how/whether role expectation is changed with time. In the current study, we conducted the investigation in which participants answered to a questionnaire of role expectation. Also, participants were asked how long the relationship has been lasted with their partner. As a result, the score of “help, confidence” to the partner with long relationship was higher than that to the partner with short relationship. This results suggests that it is important to consider a partner especially in long relationship period in order to keep a good relationship.

Keywords – Role expectation, Cross-sectional survey, Partner

1. 背景

人は他者から抱かれる期待の影響を受け、行動を決定することがある。この、他者から抱かれる期待のことを役割期待いい、人間関係の質に影響していることが報告されている[1]。したがって、どのような役割期待を持たれているかを明らかにすることは、円滑な人間関係の構造を明らかにするうえで、重要であるといえる。特に、青年期は、主たる人間関係が親から友人や恋人に移行する時期であり、青年期における友人や恋人に対する役割期待を明らかにすることは、自己形成を理解するためにも必要であるといえる。下斗米[3]による大学生を対象とした、友人・恋人関係における役割期待を調査した研究において、友人と恋人に対しては、役割期待が異なることが報告されており、青年期における自己形成において、友人と恋人が異なる役割を果たしていることが示唆されている。

しかし、役割期待が時間経過とともにどのように変化するのかに関しては、十分に検討されていない。青年期を自己形成の過程とみなすならば、役割期待が時間とともにどのように変化するのか明らかにすることは、その過程を検討するためには重要であると考えられる。そこで本研究では、大学生を対象に、友人と恋人に対する役割期待が、時間変化に伴って、どのように変化するのか調査することを目的とした。

2. 調査方法

2.1 調査対象者

東京都内の大学生 11 名 (女性 1 名, 男性 10 名, 平均年齢 22 歳) と club けいはんな[2] 会員 27 名 (男性 9 名, 女性 18 名, 平均年齢 22 歳) であった。

2.2 調査内容

先行研究[3]を参考に調査内容を決定した。まず、自分の友人を 1 人選んでもらい、その人との関係性はどのくらい続いているのか、どの程度その人について知っているかについて、回答を求めた。その後、役割行動期待尺度[3]への回答を求めた。友人に関する調査の後、恋人の有無を尋ねたのち、同様に恋人に関する質問への回答が求められた。

2.3 調査方法

調査は、質問紙もしくはウェブを用いて行った。

2.4 分析方法

友人、恋人に関する調査それぞれについて、役割期待尺度の下位尺度(「支援・信頼」, 「外見的魅力」, 「他者考慮」, 「積極的交流」, 「相互向上」, 「娯楽性」, 「力動性」, 「類似性」) [3][4]ごとに評定値を算出した。次に、友人、恋人ともに、関係性の長さが 12 か月以上かどうかで分類をした。

3. 結果・考察

友人についての 12 ヶ月未満のデータが集まらなかったため、本稿では恋人に関する結果のみ報告する。役割期待尺度の下位尺度(「支援・信頼」, 「外見的魅力」, 「他者考慮」, 「積極的交流」, 「相互向上」, 「娯楽性」, 「力動性」, 「類似性」)の平均値について、関係性の長さが 12 か月未満と 12 か月以上で有意な差がみられるか検討した。その結果、「支援・信頼」について、12 ヶ月以上(4.07, $SD=0.47$)のほうが、

12ヶ月未満(3.04, $SD=0.5$)よりも有意に高かった ($t(18)=1.73, p=.05$). 結果を図1に記載する. 一方, 「外見的魅力」, 「他者考慮」, 「積極的交流」, 「相互向上」, 「娯楽性」, 「力動性」, 「類似性」の7種類については, 12ヶ月以上と12ヶ月未満で有意な差が見られなかった.

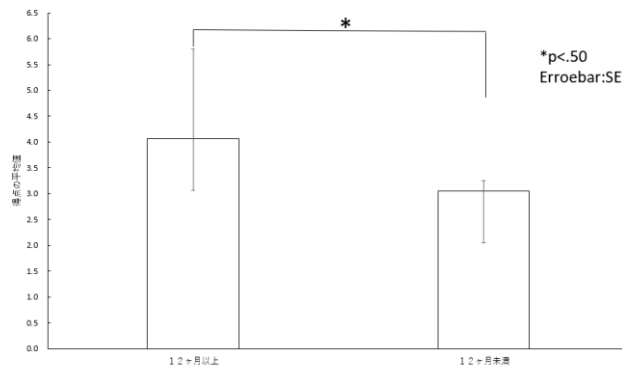


図1. 支援・信頼の平均値
(エラーバーは標準誤差)

今回の調査結果から, 「支援・信頼」という役割期待の下位尺度については, 時間が経つにつれて期待が大きくなることが示唆された. 本調査で用いた質問紙において, 他の下位尺度が, 観察可能な行動について問うものが多い一方, 「支援・信頼」に関する質問項目は, 「自分を認めてくれること」や「自分を信頼してくれること」など, 相手の内面的な部分を聞く質問が多く, このことから, 人間関係, 特に恋人関係をよりよくするためには, 交際1年未満の初期段階でも相手から信頼をしてもらえるような行動を心がけ, 1年以上からは関係が長くなってきても, その中でも相手に対し嘘をつかないことや約束を守るなど信頼をしてもらえるような行動であったり, 相手が困っていることを助けてあげる行動をさらにしてあげることで, より良い関係を継続していけると考える.

4. 参考文献

- [1] 蔵永瞳・片山香・樋口匡貴・深田博己.(2008). いじめ場面における傍観者の役割取得と共感が自身のいじめ関連行動に及ぼす影響. 広島大学心理学研究, (8), 41-51.
- [2] club けいはんな. 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
- [3] 下斗米淳.(2000). 友人関係の親密化過程における満足・不満足感及び葛藤の顕在化に関する研究 役

割期待と遂行とのズレからの検討. 実験社会心理学研究, 40(1), 1-15.

[4] 高坂康雅.(2010). 大学生における同性友人, 異性友人, 恋人に対する期待の比較. パーソナリティ研究, 18(2), 140-151.